

講義名	心理学概論			授業形態	
担当教員	福田 哲也	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

心理学は、人の心の働きや心に関わる現象を科学的に検討する学問である。そして心理学の領域は非常に多岐にわたる。この授業では、心理学の様々な領域の中でも感情心理学、パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学について概観する。それらを通して、心理学に関する基礎知識や考え方、人の心の特徴を理解する事を目的とする。

到達目標

感情・動機づけと行動との関わりを説明できる。
 性格に関する考え方や測定方法を説明できる。
 人の発達による心の変化を説明できる。
 人間士が関わることで生じる現象を説明できる。
 心が健康であるために必要なものを説明できる。

提出課題

各授業回では、リアクションペーパーの提出を求める。記載内容は、授業に対するコメントや質問等である。なおリアクションペーパーの提出は成績評価とは独立したものである。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

評価の基準

・授業内確認テストにより総合的に評価する。
 ・授業内確認テストは中間テストと最終テストの2回実施する。

注釈
 (a) 本授業の成績評価は上記のみに基づく。特定個人への追加課題や再テストなど、受講生の公平性を欠くような対応は断じて行わない。
 (b) 成績評価の対象者は、授業の欠席回数か総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学則第16条-2に準ずる）。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。
 (c) 上記(b)の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を不可とする。

履修にあたっての注意・助言他

・必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
 ・心理学という学問をより理解する上では、基礎心理学の受講を推奨する。
 ・認定心理士の資格取得を希望する場合は、単位取得が必要な科目である。

・公的な大会や行事、思ひきなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席理由に正当性が認められない場合などは除く）。

・新型コロナウイルスの感染状況によっては、シラバスが変更される可能性がある。大学および担当者からの連絡を必ず確認すること。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.心理学 新版。	黒藤 隆・森 敬昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治	有斐閣	4620	9784641053861
.心理学・入門：心理学はこんなに面白い 改訂版。	サトウ タツヤ・渡邊 芳之	有斐閣	2090	9784641221383
.はじめて出会う心理学（第3版）.	長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行	有斐閣	2200	9784641221451

その他

各回で資料を配布する。

授業計画

1. オリエンテーション：心理学とは
2. 感情：感情生起に関する理論
3. 感情：感情の表出・感情制御
4. 動機づけ：生物学的動機・内発的動機・社会的動機
5. 動機づけ：動機づけと日々の行動
6. パーソナリティ：パーソナリティの考え方とその測定
7. パーソナリティ：パーソナリティの形成
8. 授業前半の振り返り
9. 発達：認知の発達
10. 発達：人間性の発達
11. 社会：社会的認知
12. 社会：社会的影響
13. 心の健康：ストレス
14. 心の健康：心理療法
15. 授業後半の振り返り

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・各授業回で配布された資料を確認し、用語の意味や理論を自ら説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
- ・授業内で紹介された心理学に関する概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
- ・参考文献をはじめとした授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

人間社会学科共通ディプロマポリシー
 (1) 社会の仕組みや働き、日常生活や文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 目標 - を達成することは社会に生きる人々の心理を理解することであるため、自目標の達成はこのディプロマポリシーの習得および理解に貢献することができる。

(2) 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、自授業では、実際に行われた研究についてその方法も含め説明を行う。またDPに挙げられている社会共創活動・ビジネス・援助にはいずれも人が関わっているため、人の心理の理解に携わる自目標の達成は、このディプロマポリシーの達成に貢献できる。

人間社会学科 社会・文化コースディプロマポリシー
 (1) 社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことがらの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
 目標 - の達成は、人々の考え方を理解することにつながる。これにより、このディプロマポリシーに記載されたような、地域社会における人びとの生活や文化などについての専門的な知識を有することにつながる。

(2) 社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。
 目標 - の達成は、人々の考え方を理解することにつながる。人々が持つ心の特徴を理解することは、このディプロマポリシーにある「よりよい社会の実現」および「新しい社会、文化を創造すること」を考える上での重要な視点を提供できる。

人間社会学科 心理コースディプロマポリシー
 (1) 人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。
 本授業の目的 - は、このディプロマポリシーに挙げられた「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識」の習得と同義であるため、自目標の達成はこのディプロマポリシーの達成に貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

・授業ではLMS（学習支援システム）であるCanvas-Xsを用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。
 ・復習用に受講生全員に動画（授業時における授業スライドと教員の音声や録音・録音した動画）と授業資料を配布・配信する可能性がある。配信する場合、配信プラットフォームとしてはCanvas-XsおよびMicrosoft Streamを用いる予定である（配布・配信は原則として授業翌日中を予定している）